

吉備の杜

KIBI no MORI

Val. **02**
2022.Oct

CONTENTS

- 02 [巻頭特集] 温羅対談
創造戦略プロデューサーが語る
「吉備の杜」で得た実践知と未来への展望
- 03 副専攻「吉備の杜」を理解する
- 04 未来型プロジェクト・創造戦略プロジェクト
2022シーズン始動！
- 05 はじめての未来型プロジェクト
- 06 大学院生が取り組んでいる
「創造戦略プロジェクト」をちょっと覗いてみよう
- 08 SDGsと吉備の杜を考える
- 10 「吉備の杜」で〇〇を学ぶ
- 12 「吉備の杜」推進室をご紹介します



題字：沖岡山県立大学長の揮毫

「未来型思考×地域力」を付加した雑草型人材育成

予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した『雑草型人材』を育成することにより「高い専門性と幅広い人間力に立脚した地方創生を担うたくましい人材」を育てる。

岡山県立大学では、副専攻の一つである吉備の杜プロデューサー課程において、一定の要件を満たした大学院生に対して、「創造戦略プロデューサー」の称号を授与している。今回は、昨年度に称号を授与された大学院生にインタビューを実施しました。

食と栄養と健康を温め羅ねる杜



保健福祉学研究科 栄養学専攻 博士前期課程 2年 植盛 晴菜 さん

チャレンジした経験がわたしを創る

創造戦略プロジェクトでは、機能的表示食品の開発に関する研究に携わりました。選んだ理由は、元々バイオメーカーで働きたいという希望があったので、迷わず選びました。演習中は失敗もありましたが、試行錯誤しながら、どう解決するかといったプロセスを学ぶことができました。また、大学院クロスセクションの6科目すべての履修にもチャレンジしました。自分の研究と関連する分野とはまったく異なる知識も得られたことは大きな成長だったと思います。実際に就職活動で、「吉備の杜」について面接で話すと、毎回とても評判が良かったです。就職先については、修士課程で取り組んでいる研究を活かせる仕事に



就けることができました。仕事を通じての目標は、植物から抽出した成分から商品を開発し、世の中に認知されることです。また、人間力も大事だと思っています。ゆくゆくは幅広い視野を持ち合わせ、みんなから慕われるひとになりたいです。社会人になっても、全く違う分野の知識も取り入れて、積極的にチャレンジしていきたいと思っています。みなさんも、なんでもいのでチャレンジしてみてください。色々な経験をしてみてはどうでしょう。

地域のICT技術を温め羅ねる杜



情報系工学研究科 システム工学専攻 博士前期課程 2年 原 佑輔 さん

聞いて得た知識と調べて得た知識が自分の原動力

まず、私が岡山県出身で、地元岡山のことは知っておきたかったことが、この副専攻を受講した理由の一つでした。また、学部生のころからいつかは「企業で演習」をしてみたいという気持ちはずっと持っていました。今回、創造戦略プロジェクトに参加し、演習先を決めるにあたり、大学院で研究している無線通信の知識も生かせるテーマを提供していただいている企業を選びました。実際の演習では、Bluetoothを用いたタブレットのアプリケーションの開発を行い、受け入れ先企業で既に製品化されている商品の付加価値を向上させることができました。自分から積極的に聞くことは苦手でしたが、自分の分からないことや考えたことを企業の方に聞いて教え



ていただきました。教えていただいたことで、開発をより進めることができましたため、大変感謝しております。これから社会人になるにあたって、自分自身の幅広い知識を増やすことで、後輩の指導や、新しい技術の開発に生かしたいと思っています。そのためにも、興味があることはもちろんですが、分からないことは、聞いたり調べたりして自分で理解することによって、より幅広い知識を得ることは大切かと思えます。今回、副専攻を受けたことで、主専攻だけでは得られない経験や幅広い知識を得ることができました。

副専攻 「吉備の杜」を理解する

副専攻制度
主専攻の専門教育以外の分野の知識や考え方を学ぶことで、専門教育を補完するだけでなく、大学での修学意識がより高められる制度です。ここでは、学部・学科・研究科、そして学内外の枠を超えた、地域・企業と協働した学びの中で、社会や環境の様々な変化に対応できる力を身に付けます。

吉備の国、「おかやま」を舞台に主体的に学びを深める



吉備の杜プロデューサー課程 [博士前期・修士課程] “現場で即戦力となるリーダーへ”

吉備の杜クリエイター課程 [3~4年次] “地域の未来を展望できる人材へ”



岡山創生学課程 [1~3年次] “地域で活躍できる人材へ”

大学院クロスセクション
リベラルアーツ教育を行う研究科共通基盤科目で、業種の枠を超えた産業人材として必要な能力を育みます。予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする未来型思考と地域力を有した雑草型リーダーを育成します。
また、「吉備の杜」創造戦略プロジェクト協働機関の皆様にもリカレント教育の一助として受講いただいています。

課題解決型演習 (PBL演習)

- 未来型プロジェクト → (P5)
— 地域創生クリエイター課程 —
学部4年生を対象とし、20日間の内10日間を企業に赴き、現場で社員等と協働し、残り10日間は指導教員に指導受け、「おかやま」の未来を展望できる人材を育成します。
- 創造戦略プロジェクト → (P6)
— 創造戦略プロデューサー課程 —
大学院生を対象とし、20日間を企業に赴き主体的に課題解決に取り組み、企業の現場で即戦力となるスキルを養成します。

はじめての 未来型プロジェクト



栄養学科4年：三宅さん、宮田さん2名が、ありがとう株式会社（玉野市）において、「栄養あるお肉弁当の開発と販売」をテーマに、10日間の演習を実施しました。ありがとう株式会社 稲毛様、小松原様及び立川様のご指導を仰ぎながら、2名の演習テーマに沿ったメニュー開発、ビジネススキル・経験の形成に貢献する演習が活発に行われました。



玉野市内小学校（放課後児童クラブ）での 栄養勉強会実施

玉野市内の小学校（放課後児童クラブ）に小学生対象のお肉弁当を納品しました。それだけでなく、事前に食材に関連する栄養について、指導案と模擬授業に基づき、大変盛り上がる勉強会を実施する機会を設けることができました。



最後の仕上げ

最後の仕上げは、自ら開発したお弁当の販売。道の駅「みやま公園」、そして瀬戸内国際芸術祭の本物の玄关口である宇野駅構内の「玉野観光案内所」

で販売。道の駅では学生自らが店頭で販売しました。また、10月13日の山陽新聞玉野圏版に掲載されました。



保健福祉学部 栄養学科 4年 三宅 美優さん

私は今回、ありがとう株式会社様で演習をさせていただき、お弁当案の作成から販売までを行わせていただきました。お弁当は実際に小学校や道の駅、瀬戸内国際芸術祭の期間には宇野駅で販売させていただきました。販売するにあたり、売り上げを出すことが活動するうえで必要となるため、原価計算を行うなど、普段はあまり行わない経験を行うことができました。栄養学の知識と、売り上げをあげるということを両立させることは難しい部分もありましたが、実際に経営を行ううえで必要となる考え方を学ぶことができるなど、貴重な経験となりました。



プロジェクトの目的（ゴール）の共有

「栄養あるお肉弁当」の開発が本プロジェクトの目的ですが、①小学生対象、②大人向け、それぞれのお弁当を開発することで、「異年齢」を考慮した商品開発を通してビジネス全体を考え、実行できる力を身に付けてほしいということを「ゴール」にしました。



学生たちの主体性・自主性を追求

単なる目標達成だけでなく、「学生たちの主体性・自主性」を演習過程において存分に発揮してもらうことを大切にしています。調理・衛生上はもちろん、スケジューリング、タスクなどのプロジェクト管理マネジメントや、原価や会計などを意識したビジネス思想に関わる時間も提供することができています。

プロジェクトを終えた学生の感想

私は、「栄養のあるお肉弁当の開発と販売」をテーマにプロジェクトを行いました。

活動のひとつとして、宇野市にある小学校の放課後児童クラブに販売するお弁当の開発を行いました。お弁当の開発では、自分の学んできた栄養学の知識を使い、栄養バランスはもちろん、彩や季節を意識して試作を繰り返しました。

また、販売価格や材料費、作業工程、作業効率などお弁当の完成に不可欠な要素について教えていただき、演習先の方と相談を繰り返しながら完成させました。子どもたちがおいしかったと言ってくれたことがうれしかったです。

保健福祉学部 栄養学科 4年 宮田 幸佳さん

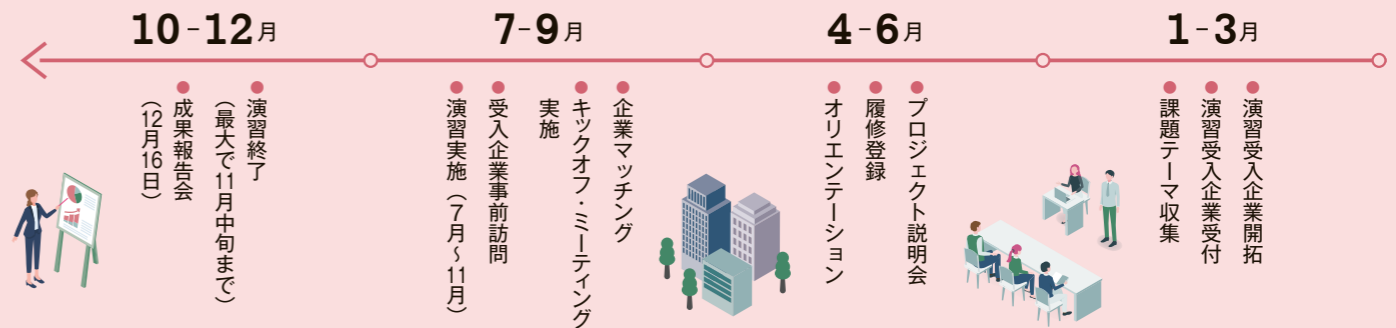


未来型プロジェクト・創造戦略プロジェクト

2022シーズンは始動!



昨年スタートした大学院生対象の課題解決型演習「創造戦略プロジェクト」に加え、本年度は学部4年生を対象とした課題解決型演習「未来型プロジェクト」がスタートしました。企業は未来型プロジェクトへ7社（8テーマ）、創造戦略プロジェクトへ40社（59テーマ）の参加申出があり、未来型プロジェクトは9社（17名）、創造戦略プロジェクトは18社（20名）とマッチングし、2022が始動しました。



未来型プロジェクトと創造戦略プロジェクトが開始されるにあたり、合同でキックオフ・ミーティングの開催を企画し、プロジェクトの参加目的や意見交換による不安の払拭を目的として、学生8名と沖学長、サテライトプログラムの責任者、プロジェクト指導教員と「吉備の杜」推進室プログラムのディレクターの計19名で開催されました。

冒頭、沖学長より本プロジェクトの趣旨と演習後に期待できる成果についての説明があり、その後、学生と教職員が参加して4グループに分かれ、複数人の会議の討論手法であるワールドカフェを用いてメンバーがローテーションしながら、意見交換が行われ、最後に各グループの代表者が意見交換の結果を報告し、プロジェクトが始動するという場を共有することができました。

キックオフ・ミーティング

日時 6月30日（木）
4限（14時20分～15時50分）

学生・大学院生とマッチングした企業とテーマ一覧

未来型プロジェクト	創造戦略プロジェクト
<p>※4年生対象 9件</p> <p>ありがとう株式会社 テーマ：栄養あるお肉弁当の開発と販売</p> <p>岡山済生会総合病院 テーマ：治療に役立つテレビ動画の作成</p> <p>キミセ醤油株式会社 テーマ：企業イメージを踏まえた季節商品の開発</p> <p>株式会社クラレ岡山事業所 テーマ：AIを用いた画像処理精度向上</p> <p>株式会社システムズナカシマ テーマ：先端技術を用いた商品の企画・開発</p> <p>総社市役所 テーマ：総社市の健康課題の解決や食育の推進のための栄養委員活動の支援</p>	<p>※大学院生対象 16件</p> <p>タツモ株式会社 テーマ：シングルボードコンピュータによる画像処理ソフトウェアの開発</p> <p>NPO法人フードバンク岡山 テーマ：フードバンクに寄贈される防災備蓄品の徹底活用</p> <p>株式会社藤原組 テーマ：町に食料の保管庫（まちくら）を作る</p> <p>株式会社iプランニング KOHWA テーマ：企業・プロジェクト等のブランディング戦略</p> <p>井原精機株式会社 テーマ：温湿度センサを使用した新たな福祉・介護機器の企画・開発</p> <p>カバヤ食品株式会社 テーマ：グミや清涼菓子製品の開発（製品改良）及びブランド構築</p>
<p>の取り組み</p> <p>関西プラスチック工業株式会社 テーマ：CADデータ ソースコードの一括変換ソフトの開発</p> <p>勸進設計 テーマ：歴史的建築物の記録及び「活用計画」の提案</p> <p>キミセ醤油株式会社 テーマ：企業イメージを踏まえた季節商品の開発と紅麴の冷凍保存方法を確立する</p> <p>株式会社システムズナカシマ テーマ：先端技術を用いた商品の企画・開発</p> <p>株式会社セントラルフーズ テーマ：セントラルフーズがSDGsへの貢献の仕方</p> <p>ダイヤ工業株式会社 テーマ：おもてなし空間作り</p> <p>株式会社タグチ工業 テーマ：WEBデザイン/社内で使用</p>	<p>するWEBアプリケーションの作成</p> <p>立花容器株式会社 テーマ：MARUカホンスタンドの開発</p> <p>タツモ株式会社 テーマ：シングルボードコンピュータによる画像処理ソフトウェアの開発</p> <p>株式会社ナテック テーマ：多関節ロボットを用いた、生産無人化システムの構築</p> <p>株式会社林原 テーマ：食品メーカーへのソリューション提案</p> <p>株式会社藤原組 テーマ：伝統構法・文化財建造物の実測・実測図の作成</p> <p>株式会社銘建工業株式会社 テーマ：木質構造事業のリクルート向け資料作成</p>

大学院生が取り組んでいる 「創造戦略プロジェクト」を覗いてみよう

（チョット）

を覗いてみよう

「県内産業発展に寄与できる人材」を企業と一体となって育成する課題解決型演習(PBL演習)プログラムです。予測不可能で急速な変化が生じる未来社会において、多種多様な環境圧をバネにする「未来型思考と地域力」を有した「雑草型リーダー」を育成することにより、高い専門性と幅広い人間性に立脚した地方創生を担うたくましい人材の輩出を目的としています。今回は、令和4年度の前半に実施した3つのプロジェクトをチョット覗いてみましょう。

食と栄養と健康を 温め羅ねる杜

Profile

保健福祉学研究科 博士前期課程
栄養学専攻 1年

池田 千秋 さん

プロジェクトテーマ●企業イメージを踏まえた季節商品の開発
概要●麴や季節の原料を使用して、斬新な商品を開発する。



もともと地域性が強い食品企業に興味がありました。しかし、大学内ではその実際を学ぶことは難しく、また一般的なインターンシップでもそれを学ぶことは難しいと感じます。このPBLの理念

である。岡山の食資源を活用し、食を通して広く健康社会の発展に貢献できる研究者や高度専門職業人の育成を目指す。と、地域性の強い企業であるキミセ醤油様に惹かれ今回のプロジェクトの参加を決めました。

今回の演習は4年生の2人と共同でテーマに取り組みました。3人で商品のアイデアを出し合い試作、検討を重ねました。話し合いの中で、チームとして考えることの力の大きさを感じました。1人では考えつかなかったような発想や、3人だからこそ、テーマに対して柔軟性を持つ



て考えることができませんでした。また、企業の方々には私たちが働きやすいよう、常に私たちに親身になってくださいました。アイディアや考え方に對してコメントやフィードバックは間違いなく大学では得られないような知恵や知識であり、多くの学びがありました。さらに、食品企業の実情について認識する機会となり、非常に貴重な経験となりました。

受け入れ企業
よりコメント

キミセ醤油株式会社

赤木 智香子 様



今年度は前半と後半でテーマを変更しました。前半は創造戦略プロジェクトの学生さんに加えて、未来型プロジェクトの学生さんと一緒に

商品開発に取り組みました。「麴、醸造、醤油」など、味やイメージに捉われない商品アイデアに感じました。たくさんのお味が存在している中で、今まで弊社になかった組み合わせで新たな調味料を創造してくれました。麴づくりは、見えないものを活用した先人たちの生きる知恵です。この知恵を永く未来に伝えていくために、風穴を開けてくれた気分です。後半は創造戦略のテーマとして、基礎研究のテーマでした。短期間でしたが、意欲的に取り組む姿に今年度も刺激を受けました。

地域のICT技術を 温め羅ねる杜

Profile

情報系工学研究科 博士前期課程
システム工学専攻 1年

村上 智 さん

プロジェクトテーマ●温湿度センサを使用した新たな福祉・介護機器の企画・開発
概要●排泄の有無を検知するセンサを搭載した車いすを開発する。



卒業研究から継続している共同研究先の企業が受け入れ企業であること、長期インターンシップに関心があつたことから、創造戦略プロジェクトを履修しました。私は、排泄の

前に自分の意思で尿意・便意を伝えられない若年者の車イス使用者を対象とし、排泄を検知するシステムの実現を目標とした研究を進めています。志望先の実施内容が「介護現場のニーズに応える、低侵襲な福祉・介護機器の企画・開発」であり、研究内容と一致していました。創造戦略プロジェクトに参加すれば、研究の深化や実践力の育成が図れると考え、履修を決めました。

演習では検知システムの構想やセンサを使用



するために必要な回路の設計・製作、計測結果の解析等をおこないました。演習を通して、新しいモノを製作するときの段階の踏み方や進め方、実際に製品が使われる状況を考慮することの必要性を学ぶことができました。この経験は、計測システムの作成に限らず、構想を実物として作り出すときや現実に使用するモノを作るときに生かすことができると思います。

この創造戦略プロジェクトは自身の研究活動との兼ね合いや受け入れ企業とのやりとりなど、学校で講義を受けることは違う大変さがあります。しかし、実際の仕事に関わることで実践的な経験が得られ、知らないことを知ることや視野が広がる将来への選択肢が増えると思います。大学院の生活も忙しいと思いますが、創造戦略プロジェクトの履修をお勧めします。

受け入れ企業
よりコメント

井原精機株式会社

中家 貴司 様



電気回路設計という課題に対し、弊社で対応できない分野を担当していただきました。大学で研究されている高度な知識

活かすことができ企業側にも良い刺激を受けました。今後も演習を通し、学生が自身の大切な将来をほしいのかヒントになる支援をしていきたいと考えています。今、研究されている高度な知識は、今後必要になってくる分野だと思えますので、自身の将来の為、一生懸命頑張ってください。

森と建築と匠を 温め羅ねる杜

Profile

デザイン学研究科 修士課程
デザイン工学専攻 1年

田中 颯真 さん

プロジェクトテーマ●MARUカホンスタンドの開発
概要●間伐ヒノキを利用して製造・販売している打楽器「MARUカホン」を演奏時に固定する木製スタンドを開発する。



私の修士論文のテーマは、デザイナーと他者のコミュニケーションに関するもので、この履修科目は、研究にも活かしている部分が多分に含まれていると考え、実際のモノづくりに関われそうなのところを選びました。

今回の演習で行ったことは、スケッチによるアイデア展開、縮尺モデルの作成、3D CADによる3Dデータの作成と、これまで授業でも行つた過程を順に踏んでいった形でした。しかし、その内容は相手方の要求・要件があることで、学内で行つたグループワークとはまた違う話し合いがあり、とても良い経験だったと思います。5週間の内、中ほどで最初に提示された要件が根本からひっくり返るといったこともありましたが、それを含めても自分の身になる良い経験でした。この文章を書いていく段階では、まだプロジェクトとしては完了しておら



ず、相手方の試作を待っている状態ですが、スケッチやジュリーングや速度感などといった違いは違う貴重な機会をいただけてとても良かったです。

デザイン学研究科はこの創造戦略プロジェクトは必修ということ、また、デザイン工学専攻の中でもプロダクトデザインに興味があるものとして興味がある内容と一致するプロジェクトは少ないということもあり、始まるまでは不安も多かったですが、始まってみれば内容の詰まった良い期間で、自分の得意を知ることでもできた良い機会でした。

受け入れ企業
よりコメント

立花容器株式会社

大佐古 聖悟 様



大学院生の創造力や発想力に驚かされました。商品を一から作り出すことは大変なこと、私たちもどのようにサポートすればよいか不安でした。ですが、木材と当社の機械で作れて実用性・デザイン性に優れた商品をつくって提案して、模型や図形を提示して下さったので、こちらイメージが膨らみ、意見を出しやすかったです。こちらだけでは浮かばなかったような発想に刺激されたりで、とてもよかったです。またこのような機会があれば、参加させていただければと思います。



と 吉備の杜 を考える

SDGsは広く社会に認知される用語になりました。岡山県立大学にも高校生の頃よりSDGsを知っていた、活動をしてきたという学生も多くいます。岡山県立大学に入学する学生も84%の学生が「岡山県立大学入学前から知っていた」と回答しています(令和3年度、4年度の社会連携要論の授業内アンケートより)。このSDGsは、学習や社会貢献、ビジネスに不可欠な用語です。保健福祉学部の岩満賢次先生や真庭市様から寄稿していただきました。ぜひ皆さんも基本を押さえましょう。

SDGsの基本知識を押さえる

SDGsとは、持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)の略称です。2015年9月の国際連合サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。この目標は17項目あり、その中に167の達成目標があり、そしてさらに232の評価指標があります。

私たち人間は、古来より、家族・地域(ムラ)の助け合いを基盤として、生活を維持してきました(互酬性の原理)。しかしながら、現在人類が生活している資本主義の社会では、人間は経済的には幸せになつた一方で、経済的な利益を追い求める余り、賃金格差による貧困、長時間労働や過労死といった人間らしくない生き方、環境破壊、これらを循環させる教育格差など様々な課題を生みだしました。そのため、価値観の転換を迫られ、SDGsが生まれたのです。このSDGsの前身として、2000年に発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とするミレニアム開発目標(Millennium Development Goals: MDGs)が策定されました。このMDGsとSDGsの大きな違いは、発展途上国のみならず、世界全体での目標であることです。このSDGsで大切なことは、「誰一人取り残さない」ことです。私たちもこの目標に向かい、自分たちの生活を良くしていく取り組みが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS ● 持続可能な開発目標 (SDGs) の詳細

目標1【貧困】 あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる	目標7【エネルギー】 すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する	目標13【気候変動】 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
目標2【飢餓】 飢餓を終わらせ、食糧安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する	目標8【経済成長と雇用】 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的雇用と働きがいのある人間らしい雇用(ディーセント・ワーク)を促進する	目標14【海洋資源】 持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
目標3【保健】 あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する	目標9【インフラ、産業化、イノベーション】 強靱(レジリエント)なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る	目標15【陸上資源】 陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、並びに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
目標4【教育】 すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し生涯学習の機会を促進する	目標10【不平等】 各国内および各国間の不平等を是正する	目標16【平和】 持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
目標5【ジェンダー】 ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う	目標11【持続可能な都市】 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市および人間居住を実現する	目標17【実施手段】 持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化
目標6【水・衛生】 すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する	目標12【持続可能な消費と生産】 持続可能な生産消費形態を確保する	

日本におけるSDGsの取り組み

日本政府は、2015年に「SDGs推進本部」を設置し、「SDGs実施指針」を策定しています。実際の行動にあたっては、2018年度以降毎年「SDGsアクションプラン」を策定しています(最新版は「SDGsアクションプラン2022」)。2016年からは「SDGsアワード」(SDGs達成に資する優れた取組を行っている企業・団体等を選定し表彰する)を実施し、各団体の取り組みを促しています。

国連持続可能な開発ソリューションネットワークは毎年「持続可能な開発報告書」を発表し、各国のSDGs達成度ランキングを発表しています。2022年は19位(79.6点)であり、2016年から2022年期間での日本の平均順位は16.1位、平均スコアは78.8点です。目標ごとの達成度が異なっており、「4、教育」「9、インフラ、産業化、イノベーション」「16、平和」の達成度が高く、反対に「5、ジェンダー」「12、生産・消費」「13、気候変動」「14、海洋資源」「15、陸上資源」「17、実施手段」について大きな課題が残っているとされています。近年では、SDGs未来都市のように、国と地方自治体が連携した地方創生の取り組みや、持続可能な開発のための教育(ESD)のように、文部科学省と各学校が連携した教育の取り組みも進められています。

岡山県でも積極的なSDGsの取り組み

岡山県はSDGs先進県とされています。「第2回「SDGsに関する生活者調査」(電通、2019年4月22日発表)で、SDGsの名称認知率が最も高かった都道府県であったことや、教育分野にもSDGsが多く取り入れられ、国のジャパンSDGsアワードに、岡山大学(2017年)や山陽女子中学校・高等学校(2018年)がSDGsパートナーシップ賞(特別賞)を早い段階で受賞していること由来しているようです。その後も県内での活動が広まっており、2018年にはNPOを中心とした「SDGsネットワークおかやま」が、2019年には企業や大学を中心とした「SDGs連携プラットフォーム」が発足しており、「岡山県経済ダイジェスト2020」(岡山経済研究所)では「SDGsを知っている」と答えた企業は59.8%に上っています。そして、内閣府にSDGs未来都市に選定されている自治体として、真庭市(2018年)、岡山市(2018年)、西粟倉村(2019年)、倉敷市(2020年)があります(2022年度までに全国の155自治体が認定)。身近なところにはSDGsがあります。

SDGs未来都市真庭ー岡山県真庭市ー

真庭市は2018年に内閣府の「SDGs未来都市」に選定されましたが、2015年の第2次真庭市総合計画策定時から、地域資源を生かした新しい価値観による生活スタイル「真庭ライフスタイル」、共生社会、持続可能な循環型社会の実現を目指し、木質バイオマス発電、生ゴミの資源化、バイオ液肥を活用した循環型農業推進などSDGsの理念と親和性の高い政策を行ってきました。市がこれまで取り組んで来た施策の延長線上にあるのがSDGsであり、目指すべき方向性がSDGsと一致していました。また、SDGsの理念や目標は行政の取り組みだけで浸透するのではなく、多くのステークホルダーを巻き込んで推進する必要があります。真庭市ではSDGsを市民運動として推進するプラットフォームとして「真庭SDGs円卓会議」を結成させ、「真庭SDGsパートナー制度」を創設し、2022年9月末現在で296団体、16個人の方に登録をいただいております。まさにパートナーシップでのSDGs達成を目指しています。さらに、2022年4月には、環境省の「脱炭素先行地域」にも選定されました。今後も、真庭市は、持続可能な社会実現に向けて取り組みを進めていきます。



令和3年オープン GREENable HIRUZEN

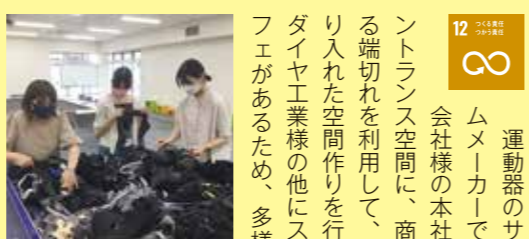


真庭バイオマス発電所 SDGs円卓会議の様子

真庭市SDGs専用HPへのリンク▶



SDGs × 「吉備の杜」



運動器のサポートインゲシステムメーカーであるダイヤ工業株式会社様の本社屋(ロコステ)の工ントランス空間に、商品製造過程で発生する端切れを利用して、おもてなし要素を取り入れた空間作りを行います。建物内には、ダイヤ工業様の他にスポーツクラブと和カフェがあるため、多様なお客様がいらつしゃいます。建物にフィットしたおもてなし空間を廃材を利用して作っていきたく考えています。



岡山県内の市民団体とのネットワークを駆使しながら、食品ロス削減や生活困窮者支援、地域づくりなどの啓発を行っています。その甲斐あって、個人、企業、行政などから食品が寄せられるようになっております。しかし、量が大量なこと、水など重い、緊急時の食事であって、日常の食生活には似つかわしくないなどの課題が見えてきました。この防災備蓄品を徹底的に防災活動や防災教育に役立てていきたいと思

います。

(NPO法人フードバンク岡山 理事長 糸山智栄)

これだけは知っておこう「SDGs」のポイント

Point 1 誰一人取り残さない
世界中の全ての人々が参画し、達成すべき目標です。そして、その取り組みによって、全ての人に恩恵をもたらすことが必要です。



Point 2 2030年までの目標
限られた期間の中で、全ての目標を達成するためには、世界中の人々の協力が不可欠です。



Point 3 17の分野に取り組む
17の幅広い目標を掲げています。全ての人々が全ての目標を達成することは困難です。自分の関心の高い分野から取り組んでいきましょう。



「吉備の杜」で 〇〇を学ぶ

近年、「リカレント教育」が大学や企業で注目されています。リカレント教育とは、一言で言い換えるならば「社会人の学び直し」です。「リカレント (recurrent)」とは繰り返しや反復を意味する言葉です。教育を繰り返すこと、すなわち教育を受ける機会から一度離れたとしても、必要なタイミングで再び教育を受けることがリカレント教育の趣旨です。近いところで、生涯学習という言葉がありますが、リカレント教育は生涯学習とは異なり、仕事に生かすための知識やスキルを学びます。

本学では、副専攻「吉備の杜」で開講している研究科クロスセクション科目を学外の方々が履修できる制度を構築しています。令和3年度と令和4年度の実績は下記のとおりです。多くの方にこの制度にご賛同いただき、様々な科目を受講いただいております。下記の履修条件をご確認いただき、条件を満たしている場合は、無料で受講可能です。すべての講義はオンデマンド配信で受講が可能です。もちろん、対面での受講を希望する場合は、本学で受講することもできます。

「吉備の杜」で学生とともにリベラルアーツを高め、時代の変化に適応し、優れた地域人材を目指しましょう。

◆ 履修条件

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトのメンバーシップ（事業協働機関）である
地方自治体、企業、団体及びその会員企業の役員・社員等（正規・非正規は問いません）

研究科クロスセクション科目（旧大学院クロスセクション科目）は令和5年度から変わります！

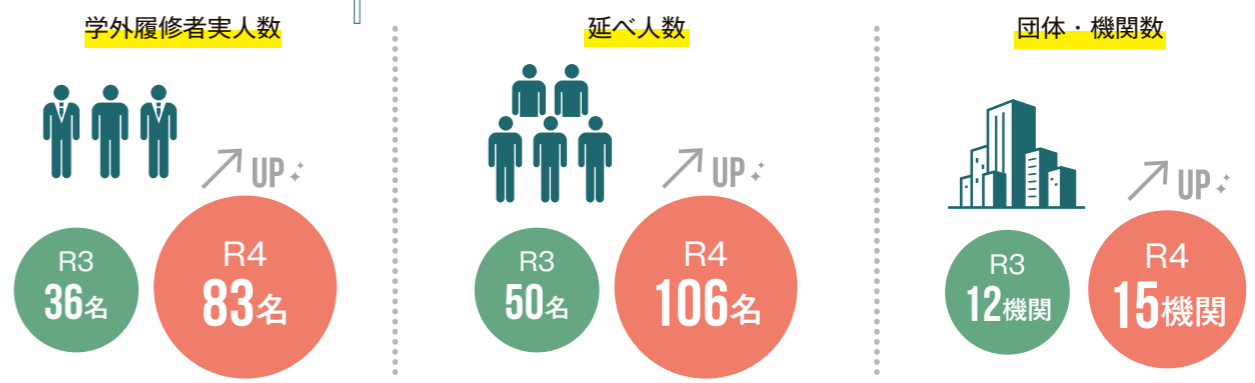
◆ 研究科クロスセクション科目（旧大学院クロスセクション科目）

<令和5年度開講予定科目一覧>

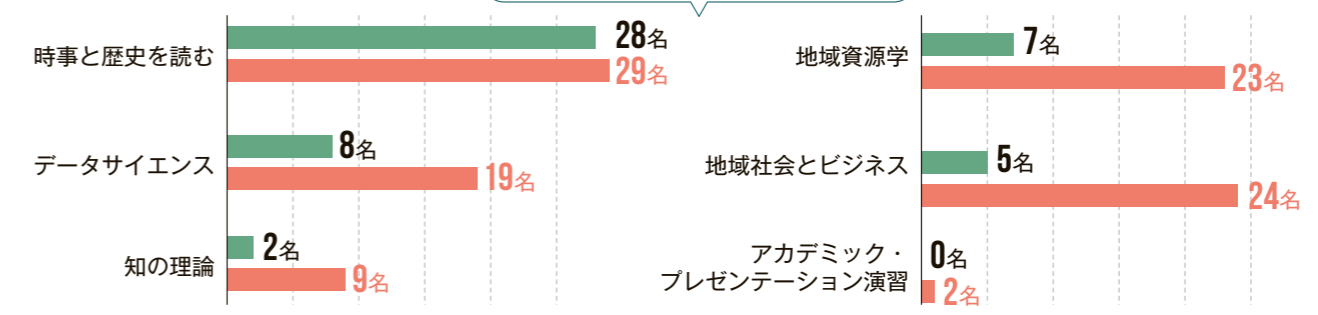
創造的思考力養成	課題解決力養成	スキル養成
[継続] 知の理論 [改称] 地域経済をテリトリーから考える (旧: 地域社会とビジネス) [新規] テクノロジーとビジネスの変革 [新規] デザイン思考	[継続] 時事と歴史を読む [新規] サステイナブルな社会に生きる [改称] ローカル・イノベーション (旧: 地域資源学) [新規] 高等教育を基盤とした社会人基礎力養成 [新規] 災害医療援助論 [新規] 災害医療援助論演習	[改称] データアナリティクス (旧: データサイエンス) [継続] アカデミック・プレゼンテーション演習 [新規] アカデミック・ライティング演習

※変更の可能性があります。

学外履修者データベース



大学院クロスセクション科目



メンバーシップのおかやまコープ西山氏の講義の様子

「吉備の杜」では 大学間連携も実施しています。

専門基礎科目「フードビジネス学」は、岡山県の特産品の食資源開発力に基づき食品の生産、加工、流通、消費について、大学における共同研究、商品開発、食品業界の品質管理や経営の現場から、食品の川上から川下までのシステムについて具体例を学びます。この科目はオムニバスの講義で、事業協働機関であるノートルダム清心女子大学、中国学園大学の教員や県内研究機関、企業団体等、多様な講師陣によって構成されています。また、教員の連携だけでなく、事業協働機関の学生もこの講義を履修できる制度を活用し、今年度は23名の学生がオンデマンド形式で受講しています。今後は、対面での参加も試み、学生間の交流もできる場を提供していきます。



ノートルダム清心女子大学
人間生活学部食品栄養学科 4年
島池 千菜美 さん

私はもともと「食」への興味があり、学びの原動力になっていきます。今回のフードビジネス学では、教科書からは得ることのできない、より社会に近い「食」の存在について知ることができると思い、興味をもちました。実際に講義を受けて、「食」を通じた学びの幅広さ、奥深さを実感することができました。人間にとって、食事は生きるための日々の営みです。しかし、その一つひとつには、様々なアイデアや工夫など、自分の知らない新しい学びがたくさん詰まっていることに気づかされました。私は将来、管理栄養士として病院で働く予定ですが、今回知り得た学びとともに患者様に食事を提供できたらと思っています。フードビジネス学は、「食」に関する興味や視野を広げることのできる、貴重な科目です。是非、より多くの方に受講してほしいと思います。

2023年【未来型プロジェクト】【創造戦略プロジェクト】受入企業募集中!

岡山県立大学では、教育カリキュラムとして学部4年生と大学院生を対象とした、**企業とのPBL*演習を設けています。**

? プロジェクト内容

企業内で直面している“実際の課題”を解決するために、若手の社員と学生がチームを作り、その中で実践的なPBL演習を行う。(企業幹部と大学教員がサポート) *PBL: 問題解決型学習・課題解決型学習

対象となる学生は?

- 未来型プロジェクト : 学部4年生
- 創造戦略プロジェクト: 博士前期課程・修士課程 1・2年次生

演習期間は? →(P3)

- 令和5年7月~11月の期間で相談のうえ決定します。
- 未来型プロジェクト: 10日程度企業で演習+10日程度学内で指導
 - 創造戦略プロジェクト: 20日程度企業で演習

費用は?

- 学生の受け入れに係る企業側の費用負担はありません。(賃金・交通費・昼食代・宿泊代等一切不要)
- 学生は傷害・賠償責任保険に加入します。

課題例 →(P4)

- 地元産の有機野菜を活用した新しい機能性表示食品
- コロナ禍に対応した非接触型の精算機の開発
- 建築プロジェクトのコンペに応募する設計案

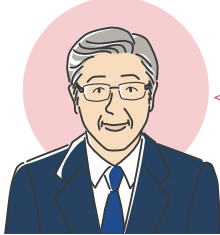


- 新たな気づき**
課題の成果発表等を通し、学生の社外、また若年層としての視点で自社として新たな気づきを得ることも期待できます。
- 企業と大学との連携強化**
技術動向などの情報交換・人事交流が進み、共同研究に展開できます。また、産業界のニーズを大学の教育に反映させることにもつながります。
- 企業のPR・イメージアップ**
学生による企業の認知、関心、理解が高まり、地域での就職意欲向上につながります。
- 企業内の活性化**
若年層を受け入れることで、指導にあたる担当者や社員、職場の活性化が期待できます。
- 早期離職・雇用ミスマッチの防止**
学生の就業理解・自己理解につながり、職業観・勤労観が育まれます。

お問い合わせ: 岡山県立大学「吉備の杜」推進室 TEL. 0866-94-2205
E-mail: kibinomori@oka-pu.ac.jp

「吉備の杜」推進室をご紹介します

Member of KIBInoMori



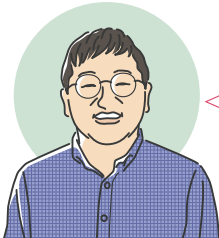
副室長
統括プログラムディレクター
渡辺 守 Watanabe Mamoru

「吉備の杜」事業がスタートした令和3年度から令和4年度前期の経験と皆様からのご意見を反映し、本事業の更なる発展に努めて参ります。



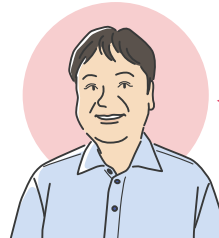
プログラムディレクター
食と栄養と健康を温め羅ねる杜担当
藤川 勝 Fujikawa Masaru

国立大学での勤務を終了し、4月から勤務しております。大学院で会得した経済学的視点からPJを推進し、創造戦略PJ等の質充実に繋がるプログラムを目指しております。



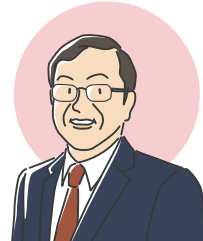
統括補佐プログラムディレクター
広報・大学院クロスセクション担当
村井 聡紀 Murai Satoki

本学14期の卒業生です！おかやまCOC+から本学の推進事業に携わっています。副専攻「吉備の杜」を盛り上げていきます！



プログラムディレクター
地域のICT技術を温め羅ねる杜担当
武本 浩和 Takemoto Hirokazu

倉敷に生まれ、倉敷で育ち、真備に住む倉敷市民です。食も技術も環境も最高の岡山！この際、副専攻で岡山にどっぷり浸かってみませんか！



プログラムディレクター
渉外担当
三宅 昇 Miyake Noboru

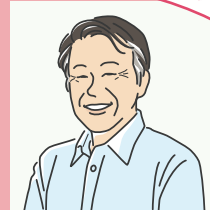
「吉備の杜」事業の渉外担当として自治体、企業や団体を訪問して、本事業の広報活動とリカレント教育への受講案内を主な業務としています。



プログラムディレクター
森と建築と匠を温め羅ねる杜担当
藤成 靖司 Fujinari Yasushi

主に〈森と建築と匠を温め羅ねる杜〉を担当しています藤成です。しばしば「厳しそう」と言われますが、見かけほどではありません。なんでも気軽に相談してください。

室長メッセージ



「吉備の杜」推進室 室長
情報工学部人間情報工学科 教授

佐藤 洋一郎
Sato Yoichiro

初めまして！本年度から吉備の杜推進室長を務めている佐藤です。本籍（？）は情報工学部人間情報工学科で、情報工学部棟や共通棟（北）辺りをウロウロしています！

ご存じのように「吉備の杜」創造戦略プロジェクトは、3年次生から大学院生の皆さんを対象にした「副専攻」の課程です。授業科目はとても魅力的なもので溢れています。中でも、4年次と大学院に配当されているPBL科目では、「企業や団体の今の課題」を企業や団体という現場に赴いて、「企業や団体の担当者の方々をサポートのことで」解決策を検討する、という主専攻ではできない貴重な経験をすることが出来ます。

学部の高年次では専門の授業や卒論で、大学院では研究に忙しい日々を過ごしていると思います。こういった中で、副専攻までは手が回らない...と思いがちです。でもこの経験は「学生の時にしかできない」と考えるからこそではないでしょうか？チャレンジしてみましよう！

「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ

大学 岡山県立大学・ノートルダム清心女子大学・中国学園大学

自治体 岡山県・真庭市・総社市・備前市・赤磐市・笠岡市・玉野市・津山市・井原市・瀬戸内市

企業等 中国銀行・山陽新聞社・RSK山陽放送・おかやまコープ・岡山県立大学協会・岡山県食品新技術応用研究会・システムエンジニアリング岡山・岡山県建築士事務所協会・岡山県経済団体連絡協議会・トマト銀行・岡山県中小企業家同友会・岡山県産業振興財団

(順不同)



未来型プロジェクト、創造戦略プロジェクト(PBL)を受け入れてくださる企業を募集しています。詳細について、ご興味がありましたら、下記までご連絡くださいますようお願いいたします。

岡山県立大学「吉備の杜」推進室 <TEL : 0866-94-2205 E-mail : kibinomori@oka-pu.ac.jp >



大学による地方創生人材教育プログラム構築事業
Centers of Community —
Project for Universities as Drivers of Regional Revitalization
through New Human Resources Education Programs

文部科学省が取り組む事業で、地域の知的拠点としての大学が、他の大学等や地方公共団体、地域の企業等と協働し、地域が求める人材を養成するための教育改革を実行するとともに、出口（就職先）と一体となった教育プログラムを実施することで、学生の地元定着と地域活性化を推進します。信州大学、徳島大学、山梨県立大学、岡山県立大学の4大学が選定されました。